

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571900218		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホーム たちばな	ユニット名	2号館
所在地	宮崎県宮崎市高岡町内山2407-3		
自己評価作成日	平成28年8月18日	評価結果市町村受理日	平成28年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kan1=true&amp;liyosyoCd=4571900218-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kan1=true&amp;liyosyoCd=4571900218-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・同一敷地内に併設病院があり、医療機関との連携体制が構築されている為、本人、家族より安心の声を頂いている。また、特養、ケアハウス、老健などもあり、行事を合同で行うことで連携が深まり、災害時の対応も協力して行える。  
 ・豊かな自然環境の中、畑にて季節毎の野菜作りを3ユニット合同で行っている。  
 ・利用者に目が行き届くことを配慮し、建物の構造を工夫している。  
 ・家族との密な関係を築くために、事ある毎に報告、相談を行っている。また、行事を企画し、家族と共に利用者の視点に立って、寄り添ったケアを心がけている。  
 ・栄養士が立てた献立で、職員が利用者の実状に合わせ直前に調理を行う為、家庭的な雰囲気です事をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周辺には田園風景が広がり、併設施設の中でも小高い場所に位置し、医療・福祉・自然に恵まれた環境にある。法人の病院や介護施設等の協力体制も整っている。職員は内外の研修に積極的に参加し、寄り添うケアの実践につなげている。代表者や管理者は人事考課や面接を行い、意見・提案を運営に反映し、また、メンタル面にも配慮し、職員の定着を図っている。利用者が、地域の中でこれまでと同様の暮らしを継続できるよう、家族の協力を得ながら支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は定例会時に唱和し、共有している。ユニットの理念は食堂に掲示し、職員間で共有して、意識をしながら、それぞれ実践している。	グループホーム全体の理念とユニットごとに作り上げた理念を共有し、寄り添うケアを実践している。今年度は家族や地域との関わりを深め、よりわかりやすい言葉で表現するよう見直しをする予定である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運動会、夏祭り、敬老会に地域の方を呼んでいる。又、地域の祭りへの参加や地域の店への買い物、散歩時には、積極的に地域の方への挨拶なども行っている。	日常的に地域の行事やお店などに出掛け、地域とつながりながら暮らせるよう支援している。地域で行われる3世代交流会(秋桜祭り)にはホーム自体が参加し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運動会、夏祭り、敬老会に地域の方に参加して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、そこで話し合ったことをサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、ホームの報告について意見や問題点を話し合い、サービスの向上に生かしている。また、メンバーからの地域情報を活用し、交流のきっかけを得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者とケアマネージャーが、プランの作成について、市の担当者へ相談を行い、プラン作成に活かしている。又、認知症ネットワークケア推進研修等にも積極的に参加している。	市町村担当者が行う研修に参加し、研修の内容やホームの取組などを相談し、行き来することで、話しやすい関係を築いている。ケアプランのことや困りごとなどは窓口に出かけて相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を受け、身体拘束について理解はしているが、職員が1人の時間帯に利用者が併設病院へ行っていた事があり、その後の対策として、職員が一人となる時間帯の18時～翌朝7時まで玄関と玄関前のフェンスを施錠している。	毎年、研修に参加し復命をしている。勉強会で繰り返すことで理解を深め、言葉かけや介護の方法などを互いに意識し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加して、理解している。又、更衣や入浴介助時に身体の確認を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、理解に努めている。 又、実際に成年後見人制度を活用している利用者がいて支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時や契約内容の改定時は、契約書類を下に、十分な説明を行い、本人や家族に同意を得て、署名捺印を頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が併施設との運動会、夏祭り、敬老会、地域の祭りに参加したり、カンファレンス、運営推進会議を設け、運営に対する意見や行事後に感想を聞き、運営に反映させている。	家族へ面会や行事参加の案内などを積極的に行い、来訪時に日頃の様子を伝えたり、意見を聞いたりしている。避難通路について意見があり、整備した経緯がある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時、もしくは人事考課時の面談に代表者や管理者が職員の意見を聞き、そのことを反映させている。	定例会や面談、毎日のミーティングで職員の意見・提案を聞いている。勤務時間の変更や物品購入などの提案を運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や個人面談を行い、要望・意見を聞いて整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講し、日々の業務に活かしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表、管理者は地域の施設交流に参加し、職員は法人内外の研修に参加することで、他施設の現状把握、新しいサービスを検討している。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、ケアマネージャーが事前調査に行き、本人や家族、前施設の職員と面談を行い、情報収集し、それを入所するユニット職員に報告、連絡を行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネージャー、リーダーが、入所時の家族との面談は時間をかけて行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、ケアマネージャーが事前調査や入所時に、本人や家族と面談を行い、要望などを聞き、その時に必要としている支援を見極めて、対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることに応じて、食事の準備、食器洗い、洗濯物たたみや干し方、おしぼりたたみ、お盆拭き、掃除等を行ってもらっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所時に理念の下、家族には、本人を共に支え合うことや事ある毎に、家族の存在が大きいことを説明し、本人との距離ができないように働きかけをしている。(家族とのふれあい行事等に家族の協力が得られている。)			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設施設、他ユニットで馴染みとなった、利用者、職員との交流がある。又、知人との外出や墓参りの支援をしている。	法人の併設施設が数か所あり、知人を訪ねるなどの行き来がある。ドライブ等の帰りに自宅付近を通ったり、立ち寄るなどしている。手紙の代筆や年賀状などで関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理強いはずに歌、軽体操、作品作り、風船バレー等のレクリエーションやおしぼりたたみ、洗濯物たたみ等の作業の声掛けを行い、一緒に行っている。又、定期的に全ユニット合同レクリエーションを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設に入所された方は、本人・家族と会う機会はあるが、挨拶程度になっている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス前に本人、家族から要望を聞き、状態に応じて、できることは支援している。又、個々に応じた対応を行っている。	日常会話の中から思いや意向を引きだし、選択しやすくすることで本人の意向に沿えるよう支援している。困難な場合は、家族から情報を収集し、好みや習慣などが継続できるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に聞いて把握に努めている。例として、電気をつけた状態での就寝、新聞で鏡をカバー、寝る前にお茶入りのペットボトルや毎日のパン提供等、その利用者に添った支援をしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食器洗い、洗濯物たたみや干し方等できる人とできない人を把握し、無理強いはしていない。日中横になりたい方へは、ベット臥床の対応をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、ケアマネージャーも状況に合わせて、業務に入り、状態の把握に努め、カンファレンスに参加し、職員・家族と共に意見やアイデアを出し合って、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族の意向や希望を確認し、よりよく暮らすための課題について話し合い、それぞれの意見を介護計画に反映している。担当職員は毎月モニタリングを行い、状態に応じて見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を行い、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、墓参り、裁判所への同行を行っている。又、散髪業者や歯科医師に訪問してもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りにて、歌の余興への参加や鑑賞を行っている。又、地域のスーパーでの買い物の支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了承のもと、併設病院をかかりつけ医としている。他科受診は、本人、家族の希望するところに行っている。又、意思確認書で本人、家族の方針の確認をしている。	希望に沿ったかかりつけ医の受診継続を支援し、適切な医療が受けられるよう情報提供や受診の同行をしている。迅速な対応ができることから、協力医療機関に変更する利用者も多い。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、定刻時に併設病院の看護師へ状態報告、相談を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提供し、入院中は定期的に面会を行っている。その際、病院関係者との情報共有し、状態把握に努め、早期退院となるように働きかけを行っている。又、併設病院の時には洗濯物の対応を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族へ入所契約時に終末期に向けた方針を书面で説明し、同意を得ている。又、重度化した場合のあり方については、1年毎に意思確認書にて確認、同意を得ている。	看取りを希望するときは、ホームでできることを十分に説明し、関係者と共に支援する体制を整えている。状態に適した環境を望む時には、併設の施設に移行できるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や月1回の定例会で応急手当や誤嚥時の対応の訓練を定期的に行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回、避難訓練実施し、日中、夜間の対応に備えている。(併設施設と年2回合同実施)又災害時に備えて、飲食料を3日分備蓄している。	法人全体で年に2回避難訓練を行い、各ユニットでも月1回避難訓練を実施し、防災への意識を高めている。併設施設の協力体制は整っているが、地域への働きかけや協力は得られていない。	火災以外にも、地震や水害等に対する防災訓練を実施し、それぞれについてのマニュアルを作成し、また、地域との協力体制を築き、訓練への参加や役割を明確にすることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段は丁寧な言葉掛けを心掛けている。しかし、状況に合わせて、レクの時などは親しみを込めた言葉掛けにして、気兼ねないようにする時もある。プライバシー面は、トイレは必ずカーテンを閉めている。		言葉かけが適切でない時は、その都度説明し、自分に置き換えて支援するよう指導している。排せつの失敗などは、そっと誘導し、周囲に気づかれないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレ(尿意、便意)がある方には、声掛けはするが、行きたい時に行ってもらっている。又、要望を聞いて、買い物、散髪、行事への参加の支援をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞いて、買い物や裁縫、軽体操、歌、作品作り等のやりたいことを支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を家族が持参している。又、本人の要望に添って服買いの支援を行い、おしゃれが出来るよう支援している。他には散髪も本人の希望に合わせた髪型にしてもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者と職員と一緒に台拭きやおしぼり配り、食事の手伝いや食器を洗ってもらっている。		行事食や自家菜園の野菜を収穫するなど、一人ひとりの力量に合わせて調理や片づけ等を一緒に行い、食事が楽しめるよう支援しているが、日常的ではなく、職員は別に食事をしている。	毎日の生活の中で、食事の場面は好みや力を生かせる活躍の場でもある。日常的に一緒に調理や食事をするなど、家庭的な雰囲気を楽しめる支援を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量をチェックし、カロリー・水分不足の利用者と本人が要望する方に対しては、家族に相談し、好みの飲食を持参してもらったり、買い物の支援を行っている。又、医師の指示で栄養強化ジュースを飲んでもらっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には毎食後、声かけにて歯磨きをしてもらっている。一部介助が必要な方には、出来る所までしてもらっている。あと毎夕食後に義歯洗浄をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	処遇表にて排泄パターンの把握に努め、早目に排泄の声かけを心がけている。		排せつチェック表を活用し、一人ひとりに合わせてトイレでの排せつを支援している。失禁の回数が減るよう、夜間はポータブルトイレを使用するなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の好みに合わせて、乳製品を摂取してもらっている。水分摂取量を把握し、水分補給を行っている。又、腹部マッサージ、ラジオ体操、軽体操を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日、時間は決めているが、その範囲で入浴時間の希望は聞いている。又、入浴は本人のペースで入ってもらっている。		定められた時間帯ではあるが、本人の希望する時に入浴ができるよう支援している。入浴剤を使用するなど、楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居眠りなどみられた時には、臥床の声かけしている。又、天気の良い日には寝具を干し、日光消毒やシーツ等を洗濯し、安眠できるように努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用、用法や用量については、申し送りにて理解し、症状の変化は定期受診時に医師へ上申している。誤薬防止として、定期薬一覧表と服薬確認のためのホワイトボードを食堂に設置している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ライフスタイルについて、本人や家族に情報を聞き、役割、楽しみごとの支援ができるようなケアプランを作成し実行に心がけている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	帰宅欲求のある利用者に対しては、本人が納得するまで付き添う。又、本人の希望による墓参り、買い物、外食の支援を行っている。他には、家族に相談し、ドライブ、外食、花見の協力を得られている。		毎日の散歩や畑の手入れなど、一人ひとりの希望に沿って日常的な外出を支援している。墓参りや遠方への外出は、家族の協力を得て実現している。	



自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理し、買い物をする際に本人へお金を所持してもらうように声をかけるが、本人が職員に委ねられる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	協力が得られる家族には、電話の支援を行っている。又、家族への年賀状作成の支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節に合わせた花や作品を利用者を作り、それを飾っている。又、室温計、湿度計を食堂とホールに設置し、快適な温度管理に努めている。	円形の設計のため、自然とみんなが中央に集まり、どの窓からも外の景色を眺められ、四季折々の花々や変化を感じられる。掃除や整理整頓も行き届き、ちょうど良い明るさと温度設定がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを2つに分けることで、気の合う利用者同士が座っている。又、ホールにホームソファと椅子を数個設置することで、思い思いに過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、寝具、タンス、ベッド、椅子等を使用してもらっている。又、家族の写真、自分の作品を置いている。その他には、本人の思い入れのある花を家族が持参し飾っている。	居室は、仏壇や家具など、使い慣れたものを生かし、本人・家族と相談しながら居心地よく過ごせるよう配置している。家族の写真や花を飾るなど、自分らしく過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ標識の設置、居室ドアには、名前を掲示している。又、自力歩行が困難な利用者には、歩行器歩行や車椅子自走をもらって、自由に移動できるよう声をかけている。			